

商業まちづくり復興課題対応モデル事業について

福島県商工労働部商業まちづくり課

県では、商業機能を維持するなど、避難者や高齢者をはじめとする県民が安心して暮らせる商業まちづくりに資するモデル的な取組を実施する市町村等に対し、「福島県商業まちづくり復興課題対応モデル事業」による支援を行っております。
平成27年度は下記のとおり本事業を活用した取組が実施されました。

○中心市街地の活性化、原発風評被害の払拭を目的とした取組

「Fukushimaアキフェスinえきまえ2015 “福島サンドストーリー2015”」

福島駅前元気プロジェクト委員会は、「福島Sand-Story」とのコラボレーション事業により、中心市街地活性化や、原発事故に起因する風評被害の払拭を目指し、福島市中心市街地で、「砂の遊びとアート」をテーマにした参加体験型イベントを実施しました。アーティストによる砂像制作・展示の他、福島県産出の砂を用いた巨大な砂場の設置を行いました。



イベント期間中は多くの人々が訪れ、中心市街地の集客と賑わいの創出に成功した他、子どもたちが元気よく砂遊びを楽しむ様子が各種メディアに取り上げられ、風評被害の払拭にも大きく貢献しました。

○コミュニティ機能の再生のための事業

「空き店舗を利用したまちづくり拠点整備事業」

田村市の船引まちづくり協議会(田村市)では、歩いて暮らせる賑わいのあるまちづくり、避難によりコミュニティが分断された地域住民が集える場所づくりを目的として、空き店舗を改修し、コミュニティ施設を整備しました。

コミュニティ施設は、住民が自由に立ち寄れる場となっている他、観光情報発信、様々なイベントやワークショップの実施拠点となっているため、市の中心部の活性化に大きく貢献することが期待されます。



○観光客の増加、中心市街地の活性化のための事業 「信夫山ガイドセンター開設事業」

一般財団法人ふくしま未来研究会(福島市)は、福島市の中心にある信夫山に「信夫山ガイドセンター」を設置しました。

信夫山への観光客増加と、信夫山を目指す観光客が、駅から中心市街地を回遊することによる商店街への来客数増加を期待した取組となっています。

ガイドセンターには、展望スペースや資料展示室が設置されており、福島市のシンボルである信夫山の魅力を県内外に発信する拠点となっており、多くの人々で賑わっています。

